「ESDの10年・地球市民会議2011」課題別WS
国連大学RCEイニシアティブ

岡山におけるESDの推進について（岡山モデル）

平成23年9月18日

RCE岡山

（岡山ESD推進協議会事務局）

岡山におけるESD推進で大切にしていること

多様な人々が参加し、対話することを通した学び合いの場を提供し、持続可能な社会づくりのためのつながりをつくっていくこと。

１．岡山におけるESDの推進
「岡山モデル」とは？

- ２００５年から岡山市域で行われてきたESD推進の方法・しくみである

- 岡山におけるESD推進において特徴的であり、効果的に機能したと思われるポイントを今回整理した

2. 岡山の持つ歴史・自然①

- 岡山の人は、穏やかな自然を農業（干拓）等ですみずみまで活用し、 自然と共存してきた歴史がある。

- 自然・生活の持続可能性に対する危機感が薄いという課題があった。

2. 岡山の持つ歴史・自然②

- 戦後の産業構造・ライフスタイルの変化
  - 都市化の進展
  - 社会構造の変化による自然との関わり方の変化
  - 社会課題の顕在化

「地域的多様性＝多様な地域課題」が
顕在化し、ESDに取り組むきっかけとなった。

３．岡山モデルにおける特徴的な5要素

（1）多種多様な団体や人がESDに関わる「場」の提供

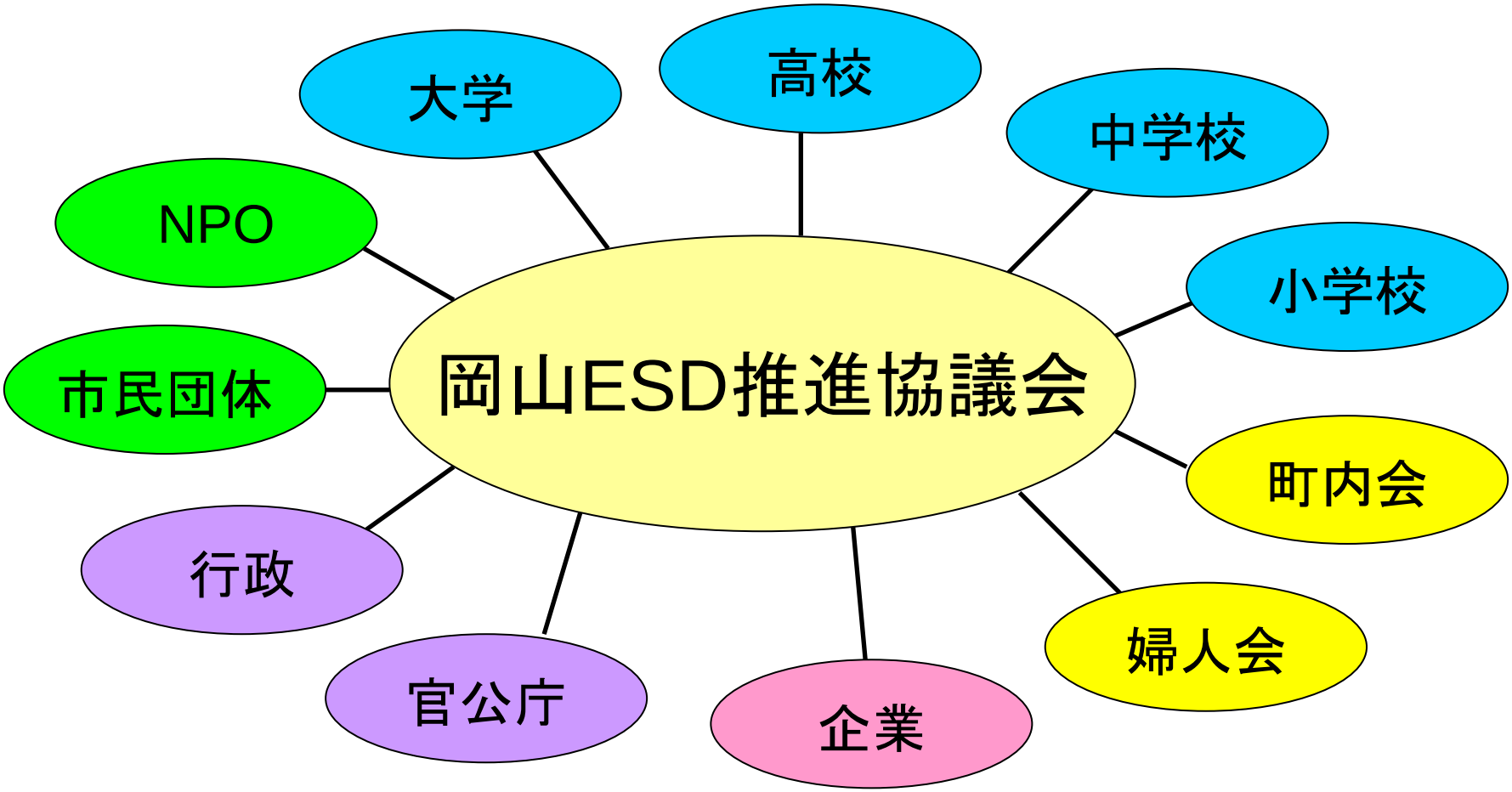
（2）行政による主体的かつ継続的なESDの推進

（3）専従コーディネーターによるサポート

（4）公民館を拠点としたESD推進

（5）地域が主役、大学はサポーター

（1）多種多様な団体や人がESDに関わる「場」がある①



（1）多種多様な団体や人がESDに関わる「場」がある②

＜ESDカフェ＞

＜ESDウィーク＞

（1）多種多様な団体や人がESDに関わる「場」がある③

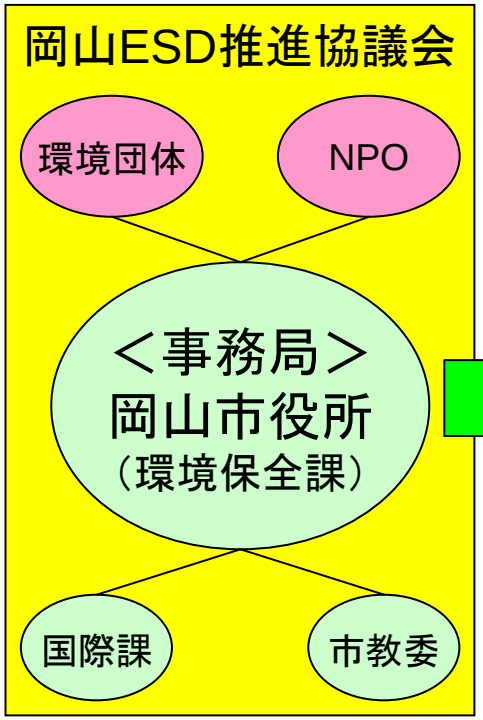
【成果】

- 「つながる機会」⇒「対話」⇒「学び合い」が生まれた。
- 「ゆるやかな」ネットワーク・・・多様な団体が自由に学び合えた。
- ESDに取組む団体・市民を増加させ、エリア的な広がりが見られた。

【課題】

- 参加していない団体や地域の人を対話の場へ取り込む方策を描く必要がある。
- ESDとして取り組むテーマや分野をより広げることが課題。

（2）行政が主体的･継続的に ESD推進に取り組んでいる ①



★行政（岡山市役所）による 継続した事務局運営

★既存ネットワークと 行政内組織の活用

（2）行政が主体的・継続的に ESD推進に取り組んでいる②

【成果】

- 行政が主体的にESDを推進することで、行政の持つ強みを活用することができた。（安定性・組織力・既存のネットワーク・信用）
- 行政が入ることで、ESDが地域社会全体の公共的施策（新しい公共）として地域の人々に認識された。
  ⇒ESDが受け入れられやすかった。

【課題】

- 行政組織内での連携を図る取組みを進め、縦割り組織の弊害を最小化する必要がある。

（3）専従コーディネーターによる継続したサポートが安心感を生む①

- ESD推進のため専門性の高い専従職員をコーディネーターとして事務局に配置。（地域外・海外の多様なステークホルダーと関連するため）
- 外部での勤務経験者を専従コーディネーターとし、外部の視点を持ってコーディネートを実施。

（3）専従コーディネーターによる継続したサポートが安心感を生む②

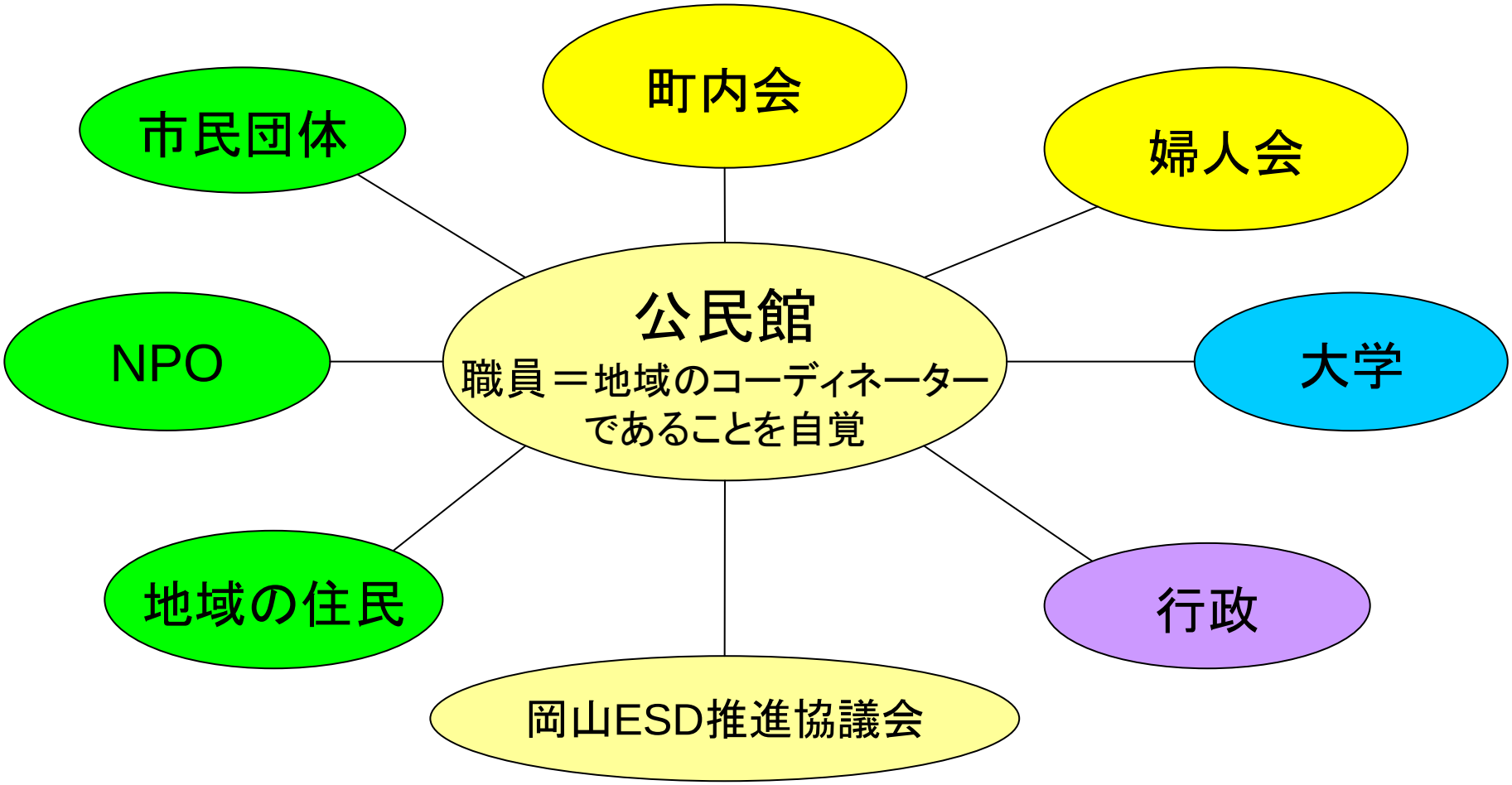
【成果】

- 専従コーディネーターによる継続したサポート
  ⇒関係者との間の信頼関係と協力的なネットワークづくり
  ⇒多様な団体を結びつけることができた。

【課題】

- 専従コーディネーター雇用の継続的な財源確保の道筋をつけること。
- 事務局コーディネーターが果たすべき役割を整理し、必要となる資質を分析することが必要。
- ESD推進の成果に対する評価指標の設定が必要。

（4）公民館による地域でのESD推進①



（4）公民館による地域でのESD推進②

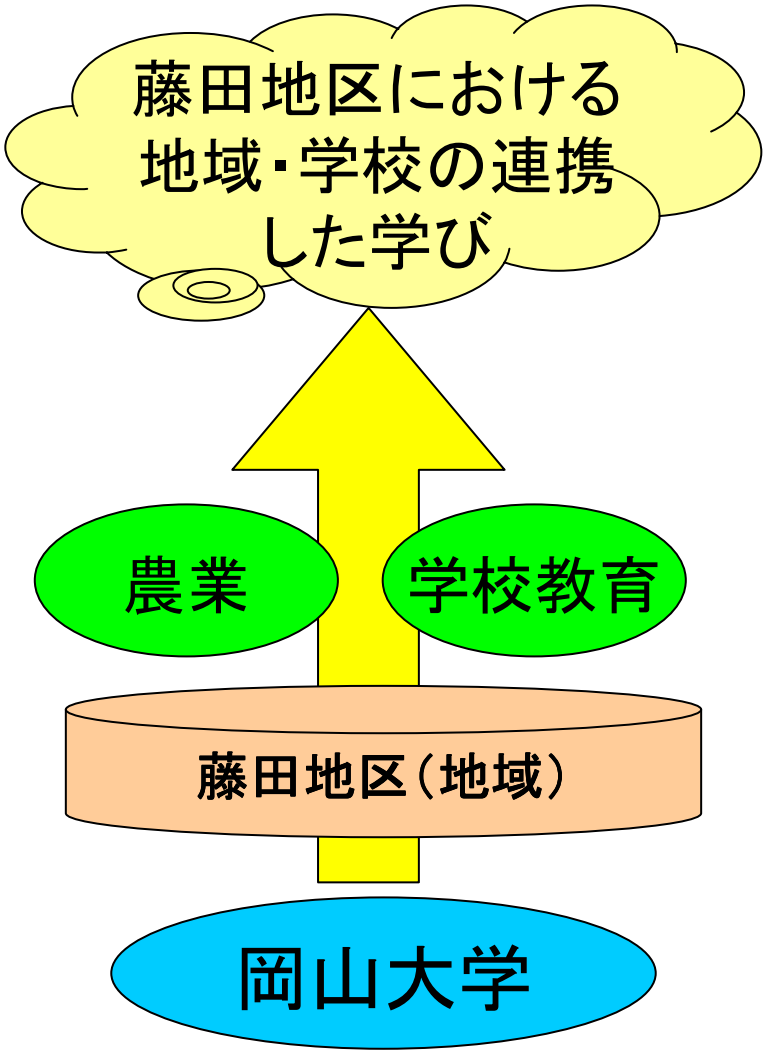
【成果】

- 公民館が地域住民にESDを学ぶ場を提供している。
- 公民館職員がコーディネーターとしてNPO、市民の活動、地縁組織を結びつけている。
- 公民館が社会教育機関として再認識された。
- 地域住民がすでに行っている活動をESDの視点から意味づけができた。

【課題】

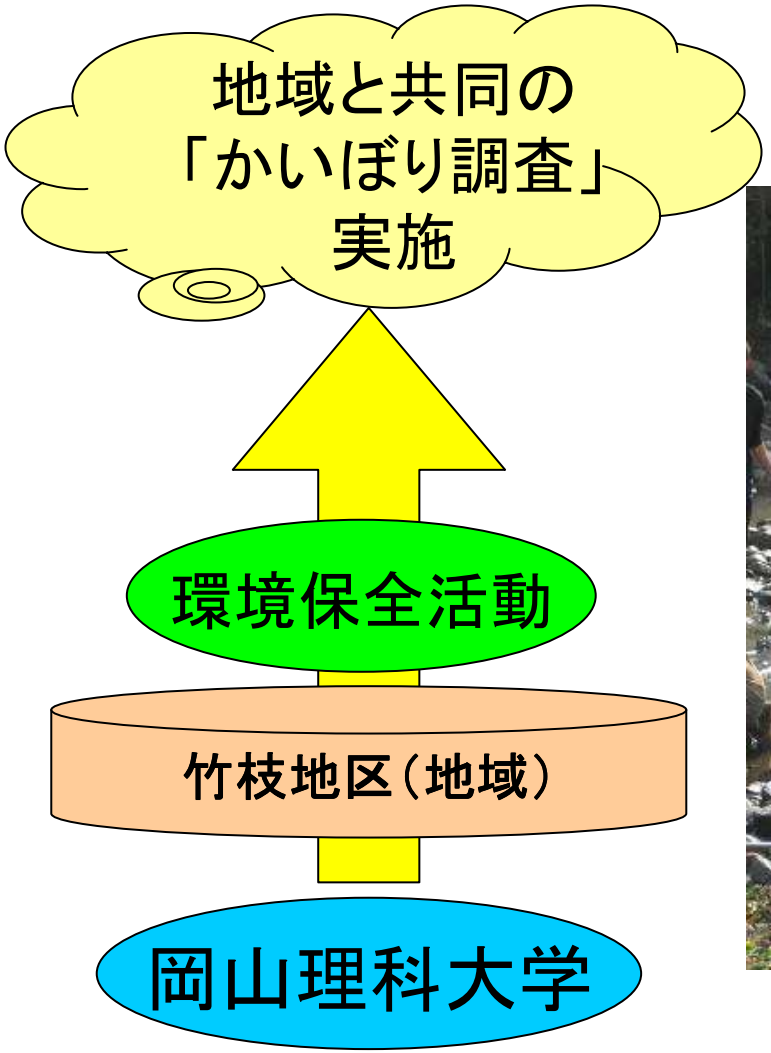
- 地域課題に取り組むため、地域の核となる人材（キーパーソン）を育成する必要がある。
- 公民館職員がさらにESDに関する知識を深める必要がある。
- 公民館職員の知識・スキルの差異を小さくする。
- 専従コーディネーター（協議会事務局）地域のコーディネーター（公民館の社会教育主事等 ）との連携・協働の仕組みづくりが必要となる

（5）地域が主役、大学はサポーター①



＜藤田地区での岡山大学による小学校
教員研修の様子＞

（5）地域が主役、大学はサポーター②



＜岡山理科大学の協力による
かいぼり調査（竹枝地区）の様子＞

（5）地域が主役、大学はサポーター③

【成果】

- 大学が地域のESD活動に入り込み連携・支援を行っている。
- 大学が持つ専門的視点を活用することで、地域の人々だけでは発見できなかった「気づき」があり、地域の魅力の再発見につながっている。

【課題】

- 地域課題に応えるには、環境・教育分野以外に、経済・福祉・工学等の幅広い分野での連携・支援が望ましい。
- 地域理解と専門性に立脚して地域課題の解決にあたる、多様な大学人やコーディネーターを見いだしていくことが重要である。今後のESD推進に必要な現状分析を行うために、高等教育機関と地域の連携をより強化していく必要がある。
- ESD推進に必要な学生のコーディネート力を伸ばし、自主的な参加を促す必要がある。

4. 今後の展望

（1）ゆるやかなネットワークを保ちながら、行動する団体を増やしていく。

（2）行政が継続して事務局運営を行いつつ、課題への対応を進めていく。

（3）ESDコーディネーターに必要な資質・能力を分析し、コーディネーターの育成システムを構築する。

（4）公民館を活かして、地域の自らがさまざまな組織において地域課題に取り組み続け、さらにグローバルな課題との結びつけていく。

（5）大学等の高等教育機関が、ESDのより多くの分野へ参加し、地域と結びつくように、マッチングの充実を図る。

（6）ESD活動が「持続可能な未来づくり」のための人づくりとなっているかについて、指標設定・検証方法を確立し、分析・解析していく必要がある。

震災に対する
RCE岡山の取り組み

支援

- 宮城教育大学、東北大学からの要請により、防寒着、学習用辞書等を送付。(岡山ESD推進協議会を通して岡山市民から）
- 気仙沼市教委を通して、電気スタンド等を送付。（岡山市）
- 岡山大学、岡山理科大学、その他多くの組織や団体が支援を実施。

交流事業

- 仙台市の小学生を招いて岡山市の小学生と環境学習で交流してもらう事業を夏休みに実施。（岡山市）
- 岡山大学の有志により、被災地（福島）の子どもたちを招待する事業等、市内各地で被災地との交流事業が行われている。

震災から学ぶ

- 震災を考えるワークショップ開催（3月）
- 公民館職員で震災からの学びをどう事業に生かすかの研修（4月）
- ESDカフェ（市民の自由な対話の場）で、震災から学ぶをテーマに毎月開催。

  「もしライフラインがとまったら」

  「いざというとき頼りになるまちづくり」

  「持続可能なエネルギーを考える」等

公民館の事業

- 市内37館のうち34館で、震災または防災に関する講座や事業を開催。

＊震災を知る(避難者やボランティアの話を聞く等）

＊体験・訓練、マップづくり等

＊エネルギーについて考える

＊ライフスタイルの見直し

＊災害に強い地域づくり(多文化共生など）

学校での取り組み

- 震災経験者、ボランティアの話を聞く。

岡山ESD推進協議会
活動方針より

- 東日本大震災について、他地域のRCE関係者と情報交換、連携しながら、特にRCE仙台広域圏の復興支援と学びあいを継続的に行うことで、岡山地域での持続可能な社会づくり、ESDの取り組みに生かす。

ご清聴ありがとうございました。

岡山ESD推進協議会 事務局
（岡山市役所環境保全課内）
流尾　正亮
Email: masaaki_nagareo@city.okayama.jp
TEL:086-803-1284
FAX: 086-803-1737
HP: http://www.city.okayama.jp/kankyou/kankyouhozen/esd.html